

- 1 会議名 公共施設再配置計画検討協議会
- 2 日時 平成30年4月20日（金）
午後1時13分から午後2時30分まで
- 3 場所 第3委員会室
- 4 出席議員 全議員
- 5 出席者 総務部長 山田日出雄、建設部長 片岡和浩、教育こども未来部長 長谷川忍、都市整備課長 西村忠寿、同主幹 石黒光広、同再任用職員 長瀬公治、学校教育課長 石川文子、同統括主査 佐野亜矢、同主任 林義修
- 6 事務局出席者 議会事務局長 隅田昌輝、同主任 高野真理子
- 7 会長あいさつ
- 8 執行機関あいさつ 建設部長より
- 9 協議事項

(1) 岩倉市学校施設長寿命化計画について

学校教育課長：資料に基づき説明。

今回配布した資料は完成版である。3月15日の協議会でパブリックコメント案を配布した。パブリックコメントを行い、意見が1件あった。32ページ今後5年間の実施計画はあるがその後の計画はどう考えているかというもの。それを受けて、今後の計画については市全体の財政や学校施設の状況を踏まえてマンコストの縮減・平準化を図る、その都度検討して見直しを図り進めていく。具体的な時期の記載はできないが、現時点で優先順位がわかるような記載を検討するということで、市の考え方として示した。それを受けて、31ページを追加記載した。1期から4期に分けて中長期計画を示した。これを基本にして、市全体の財政状況を踏まえ、児童生徒数の推移、市民ニーズを検討しながらその都度見直しを図る。もうひとつは、3月27日の公共施設再配置計画検討委員会の委員から意見があった。16ページと32ページ、岩倉中学校の給排水を含めた改修、南小学校でも同じような改修、5年間の実施計画と見比べて、南小と岩倉中の給排水は機械設備にあたるが、それがA判定だった。A判定は26年当時のものだった。その後給排水の修繕がよく行われるようになり、老朽化が認められC判定であると見直した。前回の案と今回の完成版との変更点は以上の2点である。

【質疑】

大野議員：32ページの今後5年間の実施計画について、南小の西館の長寿命化改修とあるが、16ページの評価では健全度78点と高い。改修の具体的工事の内容を教えてほしい。

学校教育課長：具体的な改修内容については今後詰めていく。学校全体の教室配

置も考慮しながら、例えば地域に開放できるような、今後実施計画を立てる。

大野議員：健全度や点数の低いところの改修を進めるのが一般的な考え方だが、あえて点数の高いところを実施計画に挙げた理由は何か。

学校教育課長：国も進めている長寿命化改修は、古くなってからではなく建築後40年というタイミングでやることに意味がある。40年で改修、80年をめどに長寿命化を図る。老朽化したものより先というのではなく、老朽化している建物も平行して別に進めていきたい。

大野議員：5年後だと築45年になっている。40年未満のものを整備していく、南小の西館が突如として挙がってくるが、31ページの長寿命化改修するのは9ヶ所。他は大規模改修するか改築するか、西館だけ残すことになっているが、この長寿命化改修は何を中心に行うのか。どのような付加価値をつけてあと40年もたせるのか。

学校教育会長：先ほども申し上げた通りである。例えばICT環境の充実など、調べ学習室。それは学校によって違うと思う。教室配置や規模が違うので各学校に応じていろいろなことが考えられると思う。

大野議員：学校に応じて違うと言うが、このコンパクトシティ岩倉で学校毎に長寿命化計画が違うというのは、ほとんど同一の方針で進めていかなければいけないので、ある程度の方針が無いのだろう。長寿命化改修に向けての方針策定はいつの段階で行うのか。

学校教育課長：全体の方針を作るというのではなく、学校に応じて例えば地域開放を望む学校もあれば、違うものを望む学校もある。実施計画において、学校の改修事業の中で考えていく。

大野議員：そういうことを決めるための計画案なので、それぞれ違う計画になるわけがない。岩倉市で同じ教育をしているから、だいたい同じ方針でいかなければ。もともと同じ考え方である。学校開放はどこの学校もやっていこうというのはあるので、学校ごとに違うのはちょっと違うと思う。もっと広い市域なら違っていても理解できる。

教育こども未来部長：すべての学校を同じように改修するわけではない。南小の東館には高齢者の方が常駐しているという特色があり、放課（休み時間）になれば子どもたちが高齢者とふれあう、グランドゴルフを一緒にやる、地域への開放が進んでいる。東小学校の特色、五条川小学校はコミュニティーがあって特色がある。学校によって長寿命化の改修の仕方は違ってくる。南小は4棟あり、特に西館と南館は3階建ての2教室の縦長、南館の1階に放課後児童クラブ、西館は1階に低学年向け図書室や調べ学習室があり、土曜日の放課後子ども教室でも利用するので、1棟を地域に開放するような改修ができればセキュリティの問題もやりやすいと考える。算定については、改修率何%で費用は

出しているので、この長寿命化計画の中ですべての学校がこういうふうに改修するというまでの方針は出せないと思う。実施計画等で明確にしていきたい。

大野議員：31ページにこの表が新しく載っている所以说っている。長寿命化するの南小・曾野小・南中、ということが第1期・第2期の間にあるので、曾野小は6年目以降にやるということになるので、方向性は決めておかないといけない。学校ごとに違うから実施計画で決めるというなら、この計画は何なんだ。示さないとわからない。

黒川議員：論点を整理したい。31ページ、第1期計画では5つの施設が長寿命化改修で、既存のものプラス付加価値を付けていこうというもの。付加価値の内容については例示がある。各学校の経営方針や地域との関わりによって付加価値をどうするのかということ、現時点でどこまで詰めることができるのかというのは難しいところである。ただ、大野議員が聞きたいのは、31ページの表で示されたので、こういう考え方で臨むという漠然としたもので出していきたいということではないか。

鈴木会長：例えば南小の西館と南館を第1期で長寿命化。南館も西館も小規模の建物なので、一気に施工してこういう使い方をすると示す必要があるが、それはどこが示すのか。個々の学校で検討してもらうのか、学校教育課で方向性を示すのか。その後、曾野小も出てきて、また違う長寿命化の計画で進めるとなると、協議する時間にかかるだろうし、内容によってはお金も違ってくるだろう。4年後に南小の西館となっているが、すぐ引き続き南館となると一緒にやったほうがよいだろう。南小と曾野小の考え方が違ったら、違う長寿命化改修という流れができてもおかしくないだろう。それは学校に委ねるのか、どこに委ねて計画案を定めるのか。既に方針を考えないと進んでいかない。

黒川議員：実施計画段階で詳細計画をまとめていくということだが、かなりのお金がかかる長寿命化にしても大規模改修にしても実施計画の作成段階で、議会と協議できるかということも重要なポイント。従来から実施計画は執行機関で策定し3年間ローリングさせている。10～11月頃に議会に報告をいただく。その時点では実施計画イコール新年度の予算となり、実施計画そのものは重要性を帯びている。実施計画のプロセスの過程において議会と協議するという姿勢に立てるかが重要なポイントだろう。全ての事業ではなく、学校の長寿命化や公共施設の再配置に関する実施計画でもって詳細的に計画として挙げる、つまり実行計画、そのプロセスの過程で議会と協議しながらやれるか。

教育こども未来部長：費用についてはだいたい算出してある。南小の西館と南館はまだ5年先だが、我々としては、方針としては、西館は学習活動への適応性

を高めたい、南館は一部を放課後児童クラブで使っているので地域の拠点化をしたかどうかというイメージはある。長寿命化計画においてそのように決めるという段階ではない。学校の意見とか地域の意見を聞いていくものと思う。実施計画の議論は5月頃から始まるが、どこの段階で議会に示すかわからないが、いろいろな会議とか再配置の検討の中でも議論されていくものである。

鈴木会長：この学校施設長寿命化計画は、委員会で再度確認して、確定か。

学校教育課長：本日配布したものが最終版である。事前に委員に意見をいただいている。追加部分についても了承済みである。

（２）スケジュールについて

都市整備課主幹：資料に基づき説明。

【質疑】

大野議員：モデルケースが6月以降から7月に出てくるのは、既に遅れているので、もっと早い段階で出てこないと委員会も我々も協議できないので、もう少し前倒しできないか。

都市整備課長：昨年度、モデルケース7案を示した。1期10年間でやるものが4案、残り2期で3案。学校施設の長寿命化と公立保育園の適正配置方針を受けてモデルが変わってくるだろうと予想している。関係団体ヒアリングや協議会や委員会で意見を頂いたり、ワークショップで若い方から意見をいただいたり、当初の案が変わるだろう。改めて内部でモデル案について修正して、早い段階で協議会や委員会に示したい。できれば5月の協議会で示したい。

鈴木会長：市民説明会について、以前は市民説明会の周知が悪く、集まりがよくなかったし、いろんな意見も聞けなかった。市民説明会の開催方法をどうするか。中身が難しいので、概要版を作るなり、皆さんに理解してもらえるように工夫すべきだと思うが、どうか。

都市整備課長：広報に掲載したがどれだけの方が読んでくれたか。目に触れるかたちで発信していく。1回目の市民説明会で市民に周知されたとは思っていないので、もっとわかりやすく担当部署も交えて取り組みたい。改めて今の取り組みを説明する。市民説明会では賛成か反対かという話に終始してしまう傾向にあるので、モデルケースを出してワークショップ的な意見をいただくとか、発展的なものにできないかとか、工夫してやったらどうかという話はしている。多くの意見をいただけるような工夫をしたい。

相原議員：春日井の先進事例というのは、どういうところか。モデルケース10案あるというのは、どういうものか。

都市整備課長：資料によると、春日井市の旧藤山台東小学校を改良して、今年4

月に高蔵寺ニュータウンの他世代交流拠点施設春日井市高蔵寺学びと交流センターという複合施設を、廃校を利用して作った。モデルケースは他にもあるが、場所が遠いのでこちらの施設で、基本的には複合化のイメージを抱いていたと思う。

(3) 公共施設再配置計画策定に係るワークショップの実施結果について
都市整備課主幹：資料に基づいて説明。

【質疑】

梅村議員：高校生が集まって意見を聞くことができ、貴重でいい機会だったと思う。しかし、模範的な意見を言おうとする心理があるのではないのかなあと思う。高校生も大人のことや子供のことを考えて意見してもらうことも大事だから、これはこれで大事な意見である。どういう施設ならあなたは利用するかという投げかけ、そんなところも踏み込んだら良かったと思う。第2児童館で土日に高校生に開放したらよいと書いてあるが、開放したらあなたは利用しますかとか、フリーマーケットを実施するとあるが、実施したらあなたは行きますかとか、そこまで突っ込んで意見交換できると、もっと生の声が聞ける。これは感想である。そんなことがあったかどうか、教えてほしい。

都市整備課長：教頭先生や新聞記者が来ていて話をした。一般的に考えられるような、自分はこういうアイデアは、使うかわからないが、聞かれたから答えるような模範的な意見が多く、本質的に踏み込んだ意見は高校生では出難いということは先生も新聞記者も言っていた。ワークショップ自体は高校生に対する意識付けとなることは評価したい。もっと踏み込んで聞く時間もなかったが、大勢の方に来ていただいたので緊張の中での開催だった。個別の意見まで聞けなかったことは反省点である。

宮川議員：例えば可児市で大学と議会が定期的に勉強会をして、300くらいの政策提案をしている。そのうち年に2～3つを議会に提案している。こういった事例もある。今回は1回目で優等生的な発言にとどまってしまったが、定期的に続けることによって幅広い意見が出てくると思う。今後そういった計画はあるか。

都市整備課長：再配置計画のために実施するのはもう難しい。希望の家については、譲渡・廃止で結論は出ているが、様々な意見を頂く中で存続させるべきではないかという声もある。有効活用していけば利用が増えるし、逆にPRが足りないから利用が少ないのではないか。これで終わりではなく具体的な案については希望の家については継続して実施していく。モデルについてはこれからスタートとなる。具体的な部分について学生や若い方の意見を取り入れながら最終的な案を作り上げていく必要があると考えている。やっていきま

すと正式に答えられないが、そういうことが必要だということは今回のことで感じている。

大野議員：今回のワークショップを高く評価する。楽器の練習をできるようにという意見は検討課題にあがるのかな。高校生だから出た案だと思う。市民と一緒に考えていく機会を作っていただきたい。ただ、改修した場合は費用対効果というがあるので再検討し最終決断するべきだと思う。

堀議員：ワークショップは評価しているが、手戻り感が否めない。譲渡・廃止を決めていた。なぜかというとな財政的な見通しで13%削減しなければならないから。市民の意見を聞けば存続案が出てくるのは当たり前である。公共施設再配置計画全体を作るということと、政治的な絡みで市民の声をどう酌みするかは別問題だと思わないと、どこまでいってもぐるぐる回ってしまう。高校生が好き勝手なことを言うのはいいが財政的な見通しとは関係ないから、事務局はそれを分けて考えなければいけないと思う。

都市整備課長：徐々にぶれてきているとは思っている。事務局は確固たる信念を持って13%減らすという思いで臨まなければいけない。どうしても失敗事例が耳に入ってくる。他の自治体で取り組もうとしたら猛反対にあうという、実際そういうケースが続出して、モデルとして考えたものが実施できなかったということがある。多くの方の意見をきいて、財政的な部分という危機感を持ちながら、費用対効果的に、施設を残す方向でやった場合にどうなるかについては最終的につけが回ってくるので、厳しく考えなければいけないと思っている。そのプロセスの中で多くの方の意見を聞いていないということがまずいと思うので、今回は高校生の意見を聞くことが目的であって、結果のように存続するにはこういう良い提案があるということも踏まえて、最終モデル事業をどういう形で市民に公表するかということは取り組んでいく必要があると考えている。

黒川議員：希望の家に関しては市場調査を行うという話があったが、それはどんな状況か。

都市整備課長：具体的には考えていない。モデル事業を考えていただく部分で希望の家については例えば、今ある指定管理を継続するか民間譲渡の方策を考えるといろいろな方向が出てくると思う。自前で継続は難しいと思う。いくつかの手法を検討することでモデル事業は一旦完結させることになると思う。まだすぐには耐用年数ではないという判断の中で、方策については実施時期を例えば5年と切って5年間で方向性を見出していく。5年先に向けて希望の家をどうしていくか、町内や関係者の方、例えばワークショップで市民の皆さんと決めていく必要があると思っている。その中で市場調査についても実施していくのかということを決めていくと思っている。

宮川議員：この一連の流れを聞いて、最初の目的を見失いつつあるような気がする。こういう施設は利用者がどう利用するかを無視して計画は立てられないことは理解している。何か改良する、もしくはこれを維持する、もしくは使用用途を変更することになると一定の費用を投じる必要がある。例えば市民楽団や自分たちの楽器の練習場ということになると、現状では音が割れてできないから一定の音響みたいな壁や天井を触らざるを得ないということが想定される。こういう案があった時に、せっかく出してくれた意見を否定するものではないが、これくらいの費用がかかるがそれでも必要かということを市民にも広く示した上でやっていかないと、利用者の意見だけを聞いていると戻ってしまい、行政としては毎年一定の施設費用を払わなければいけない。まったく結論が出ない。費用も含めて開示していくということは今後進められるのか。

都市整備課長：それはやっていく必要があると思う。40年これからスタートするので常にそれは考えて実施していく必要がある。岩倉は小さいし施設も多くないが、例えば山間地や広域な市ではいくつか統廃合するのが合理的だということで市民も納得する、同じ用途のもの。希望の家については1つしかないし青少年に特化した施設で、岩倉に1つしかない。データでは利用者も少ないし古いので廃止すると言うと炎上してしまう、市民の反感を買ってしまう。すべての施設の合計で13%減らしていくが、今後の協議の中でこれについては存続させながら13%をめぐすためにPFIだとかで市の財源を投じなくてもよい手法を考えて最終的に財源的に13%に匹敵するようなものにもっていくようなシミュレーションを常に掛けていく必要があると思う。それは実施していくということで回答する。

宮川議員：利用者が欲しいのはその施設ではなく、その機能。複合的なものも含めて、その機能をどういうかたちなら維持し残せるか、そのためにはこの施設は必要ないと判断したらそれは土地ごと売り飛ばす、でもこっちのものを中心地に複合的に作り直すとか示していかないとそこだけを議論にすると残してくれという当然の意見だと思う。代替案も提示できるような懐の深い交渉をしていかないと前に進まない。そういう考え方はあるか。

都市整備課長：ご指摘の通りだと思う。減らせば数は減っていくので財政的にも楽になるのは見えている。市の公共施設をいかに融合化複合化させて今の機能を維持・補完できるかを市民と考えて最終結論を出していきたい。

鈴木会長：講演会で南学先生が言っていた、総論賛成・各論反対。踏み込んだ議論になっていくと、すべて抵抗があって、縮小して何もできなくなってしまう。そういうところに入り込んできているのかなと思う。今年度中に再配置計画の案をまとめるので、モデルとして希望の家が挙げられている、今の曖昧な状態

でどういうモデルケースになるのか全然見えない。モデルケースで譲渡とかいろいろな当初の計画があつたが最終的にどうするか、そんなに時間が無い。どうかたちで議論するのか。これからモデルケースの検討に、詳細に入っていこうというところで、どのように考えるか。

都市整備課長：モデルについては現行のものからは、例えば学校施設の長寿命化計画で5年という計画があがっているということで、保育園もそうだが、今後どういう方針が出てくるかによってモデルの形が変わるだろうと想定している。変更した内容については、説明し、こういう場で実施に向けてどうしていくか議論するし、それがいいか悪いか判断する。想定しているモデルについて複数案を挙げて、この10年で実施できる案を絞らないと、以前出した4案プラス3案は財政的な面もあつて無理かと思う。複数案の中から1～2案を10年間で実施するというものに絞って意見をもらわないと収拾がつかなくなる、中途半端なものになる。委員会の委員長も、委員会としてモデルについてこういった意見があることを出して、その案が実現性のあるものにしてもらいたいという意見もある。何年度にどうするという事まではできないかもしれないが、方向性をいくつか示すというふうに考えている。

大野議員：希望の家に関しては3年から5年継続して指定管理していく間に3つの中から絞って最終案を、一定の時間の間に方向性を決める、明らかにしますよということでもいいか。

都市整備課長：そのとおりである。すぐ今、来年廃止ということはできないと思うので、猶予をもって、これが今後何も変わらない状況であれば廃止に向けた取り組みをしていくとか、市場調査をやって民間に譲渡するとか、方向性をいくつかもって挙げていきたいと思う。

木村議員：課長の意見に同意する。人口減少が肌で感じるような事態にならないとわからない部分もある。この10年は実行できる、市民も納得できるものをしていくことが最初の10年としては大事だと思う。その方向で進めてほしいと思う。

(4) その他

鈴木会長：希望の家について案を出して検討していくという話はしょうがないが、北小学校の体育館を建て直すときに複合化という話があつて、どれとどれを複合化するかという話になったときに、とりあえず学校の施設だけ体育館だけ作りましょうという話にならないか。複合化もなし崩しになると何をやっているのかわからない。それを懸念している。案は案で方向性を示したほうがよい。何の為かといったら、財政がひっ迫するから複合化したり統廃合したりして平準化していこうというもの。希望の家は譲渡という発想が出てきた

と思う。それすらできないとなると、これから何一つ進まないような気がする。大丈夫か。

都市整備課長：学校施設の長寿命化計画については学校教育課が今の財政状況、過去にやってきた修繕、そういったことを踏まえて5か年計画を作っている。一方で都市整備課としては、トータルで考えて案を作る必要があるので、北小学校体育館の複合化については再配置計画の中で検討する。高校生の意見で第二児童館がなくなれば広い公園になるとか、学校に近い児童館は廃止すべきだとか、そういった意見もあるので、複合化というのが実現性は担当課を含めて話をする必要がある。

鈴木会長：学校教育課が、再配置計画と関係なく体育館を建て替えると言った時に、別の所で計画が進んでいくと協議してきたことが無駄になってしまう。都市整備課はまとめをやっているが、実行に移るときにそれがなし崩しになることは避けたいと思う。それは担保されるのか。

都市整備課長：この先10年の財政計画があり、今やらなければ後年につけが回るのは明らかである。この10年間でできるかについても、理想論的な複合化だけでなく、どうしても考えなければいけない事情、財政的な、この先10年間もしくは5年間で市が抱えている事業があつて、そういったものの絡みもある。せつかく検討してきたのに後退するような話があつてはいけないと思うが、先立つものがない、そういったことを現実考えていかなければいけない。どこで折り合いをつけるかということになると思う。

大野議員：同じ意見だが、高校生が考えたって近い所の児童館は学校に入れて遠い所の児童館は残すというのは、素朴な考えで、複合化という言葉を知らなくてもそうすべきだということを知っているのは、いちばん真面目な意見だと思う。それを否定するとおかしくなってしまうので、岩倉で育った高校生が普通に考えてこのように思うというのは貴重な意見だと思うので、大人よりも高校生がそういうふうに言うというのは尊重すべきだと思う。そうしないとワークショップを開いた意味が無い。貴重な意見まで抹殺するのはいかなものかと思う。高校生の意見でも真面目に考えているからこういう意見が出てくるので、尊重すべきところは尊重して、費用対効果で合わないところは仕方がないと思うが、そういったところは尊重していただくようよろしくお願いしたい。

鈴木会長：先ほど視察の話が出ていたが。

都市整備課長：先進地ということで、資料が配布されているが、藤山台の中学校区の旧小学校、藤山台東小学校の施設を改良したもので、6月に行きたい。4月に完成したばかりで監査等で受け入れが難しかったが、6月に。6月は議会があるので、6月の議会が終わった最終週と5月のあたりで調整中である。来

月の協議会には案内ができるように考えている。委員にも行っていただきたいのでそちらとの整合もあるので、最終調整ついたら案内する。

10 その他

次回日程：5月22日（火）午前10時から